

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情5第34号	受理年月日	令和5年10月31日
件名	目黒区民センターの大規模再開発についての詳細情報を区民に明らかにするように求める陳情		
<p>【陳情の趣旨】</p> <p>1 目黒区民センターの建築設計者である建築家の池田武邦氏は、現代建築に人間の行き過ぎた文明を批判的に捉え、自然環境に調和した建築の有り方を生涯にわたり追求しました。目黒区民センターも、この志に則り、多くの樹木や周辺環境との調和を目指して作られましたが、これらの建築建物を設計者の意図を無視して全解体し、70mの高層ビルにする理由とその根拠について区民に明確にご説明ください。</p> <p>2 また目黒区民センター及び目黒区美術館を全解体した場合、膨大な量の瓦礫と廃棄物、伐採樹木が発生すると思われませんが、これらの産業廃棄物の再利用先を明らかにして下さい。また同じく大量発生と思われる二酸化炭素について、どの様に環境に配慮するのかを明らかにして下さい。 これらの解決策が明確に示されない場合は、目黒区として持続可能な脱炭素化社会に向けての目標をクリアしていない事になりますので、建物解体事業は計画の一番最後に回避する様に願います。</p> <p>3 目黒区民センターと目黒区美術館の取り壊しについて、特別委員会は地下設備の豪雨への浸水懸念を老朽化と共に大きな理由として挙げていますが、日本建築家協会からは、これに異を唱える意見が既に出されました。以下は、日本建築家協会からの意見です。</p> <p>『現目黒区美術館の地下が浸水したことは、かつて一度もない。目黒区と議員は単にハザードマップに区民センターエリアが入っていると言う事だけの根拠で判断されている。』</p> <p>『JIA（日本建築家協会）の今回の団体としてパブコメへの意見には、現美術館の地階にある空調機械室を新しくできるセンター建物にできる機械室（2階以上）に統合し、将来の維持費の低減と同時に災害時のインフラを確保することを提言した。 新建物を作るときに美術館に水が来ないように設計すれば良い。地下が浸水する恐れがあるから現美術館を壊すというのは合理的な説明にならない。』</p> <p>これについて、明確な建物取り壊し決定の理由となる地下設備の調査資料や証拠写真、いつ誰がどの様に審査にあたったかの調査報告書を全区民に分かる</p>			

形で分かりやすく示して下さい。

【陳情事項】

- 1 70mのビルにする根拠を区民に知らせて下さい。
- 2 解体するとして、産業廃棄物や二酸化炭素についての対応を明らかにして下さい。
- 3 美術館の地下設備の調査報告書を区民に示して下さい。